

つながる

2月下旬の思わぬ雪…柴山の地も一面が白い世界となりました。しかし、3月を迎えるとやさしく温かな日差しが雪を解かし、運動場で子どもたちが笑い声とともに遊ぶ姿が見られるようになってきました。子どもたちの躍動する姿を見て春が近づいてきていることを感じます。いよいよ令和3年度の締めくくりの月となりました。

振り返ってみると、学校だけではありませんが、2年続きの新型コロナウイルスの影響は、かなり大きいものがありました。「困った」というのは本音であり、発したい言葉ではありますが、「どう向き合うか」の姿勢を鍛えられたと感じています。子どもたちもしなやかに対応しています。この向き合うひとつに1人1台のタブレット端末の活用があります（以下「タブレット」とします）。

1人1台のタブレットは、いろいろな可能性をひろげる学習機器です。教育委員会に活用のための環境整備を進めていただきました。各教室、特別教室（音楽室、理科室など）がWi-Fiによりインターネット利用ができるので、教科学習の中で個々が調べ学習をすることができます。また、黒板だけでなく、教室の大型ディスプレイに教師の方から学習教材を通信で映し出し学習することができます。タブレットについているカメラ機能を使って、体育の中で動きを録画して確かめたり、校外に出て植物をカメラに撮っ



てみんなで見せ合ったりすることもできます。こうした学習を進めている中で、とりわけ魅力的であるのは、テレビ会議ができることです。お互いがタブレットを開いていてカメラを通して表情が見られます。会議に参加した人全員が自分のタブレットの画面に映し出されます（多すぎると小さい表示にはなりますが…）。マイク機能を使って、発言もできます。離れた場所でもタブレットを通してつながり合うことができます。

テレビ会議でつながり合うことを試みました。2月24日（木）に子どもたちがお家へ持って帰り、インターネットをつなぐ環境（ネットワーク接続）を確認していただき、翌日25日（金）に実際に16時15分から16時30分という短い間でしたが、各学年が担任と一緒に画面を通して顔合わせをしました。学校と家庭とがつながり、子どもと時間を共有することができました。子どもたちもドキドキしていたようですが、つな

がった時、いい笑顔が見えました（ネットワークがスムーズにつながらないケースがあり、その家庭に担任が後で伺い、不具合を解消しました）。そして、26日（土）と27日（日）は、タブレットにある学習ソフトを使った宿題を子どもたちはしました。

この試みで、もし、これから新型コロナウイルス感染等により、学年閉鎖や学校全体が臨時休業になった時、その間、タブレットを持ち帰ることにより、子どもたちの心身の健康状態を確認したり、子どもたちに直接連絡したりすることもできることがわかりました。何よりも、子どもたちの顔を見て話ができることがうれしいです。



先日の集会でライブ配信をして各教室で見ることにも挑戦しました。6年生教室を放送ステージとしてビデオカメラを設置し、健康委員会が「体があたたまる健康たいそう」を紹介し、各教室で大型ディスプレイを見ながら、みんなで健康委員会の人に合わせて体操しました。そして、その後、児童会の引き継ぎ会をしました。本年度後期児童会役員の言葉、そして引き継ぐ次年度児童会役員の決意を聞き、教室で拍手をしました。映像はきれいに映るのですが、音声が小さく調整に戸惑いもありましたが、試してみなければ、わからないこともあります。それもいい体験となりました。

この1年、1人1台のタブレット活用について試行錯誤を重ねていきましたが、少しずつではありますが、前進していると感じています。次年度から、子どもたちのタブレットに全ての教科ではありませんがデジタル教科書が導入されます。紙媒体の教科書とデジタル教科書とを一緒に使い、子どもたちが、学習内容がわかりやすく力がつくよう研究していきます。タブレットが「学びの文房具」のひとつとなるよう取り組みます。

